開催日：令和６年３月１２日（火）
場所：三重県立美術館　会議室１、２

令和５年度第２回三重県立美術館協議会　開催結果

令和５年度事業進捗状況について

・バリアフリーの問題について、空間を楽しめるようにしたり地形を利用したり、全く違う観点から考えるのもよいのではないか。また、他の館の例を調査したり、建築家に聞いてみてはどうか。これからの課題として考えていただきたい。

・洋画の青春について、大変緻密な研究の成果であり、とても練られた構想で、非常に興味深い。ただ展示室内の柵に気付かずひっかけてしまった。館内の動線についても、工夫はされていると思うが、今一度検討いただきたい。

・博物館法も改正になり、社会との結びつき、役割など、現場にとって苦しい状況が出てくるが、新しい美術館のイメージに繋がるかもしれないので、どうしたら楽しい美術館になるのかということを、アイデアを出し合ったり、他の館に聞いたりして、やっていくとよい。

・いずれの展覧会も、地元に根差した三重県らしい地域性を持ったもので、それだけの展覧会をこの人数でまわしているということに敬意を表したい。また、研究論集が出たことも良かった。美術館のなすべきこととして調査研究というのが挙げられるわけで、それを成果として出されたことは素晴らしい。引き続き研究をお願いする。人員的なマンパワーには限界があるので、与えられた範囲内で、最大限の成果が出せるよう工夫は必要かと思う。

・校長室にかかっている作品を木下富雄展で展示していただいた。子どもたちにとって、そのことがかなり驚きで、反応も良かった。今回は、学校美術館などとは逆で、学校から美術館へ繋がることができたのが面白かった。

令和６年度事業計画について

・工事等では、予算要求など大変なところがあったかと思うが、快適な環境作りに努力していただいている。予算要求含め、県の上層部の方にも理解いただいた

上で進めていくことが重要になってくるので、知事・副知事に来ていただくような案内をしているのであれば、そうしたことも視野に入れていただければと思う。

・休館の間ほどやらなければならない仕事がたくさんあるが、一般の方にはなかなか理解してもらえない。ＳＮＳなどの何らかの方法で、工事の進み具合などを発信すると、理解が得られるかもしれない。

・ＳＮＳは、展覧会や事業の内容を伝えていく手段としても大事だが、展覧会以外でも、ちょっと伝えたいことなどを、もう少し軽く、もう少し身構えずに発信してはどうか。学芸員じゃないスタッフだと、新鮮にお客様に近い言葉で発信することもできたりする。限られた時間や人員の中では大変だが、工夫していってもらいたい。

・県政記者クラブへの報道資料提供に加えて、力を入れているところ、見どころなどを記者レクで伝えると、記者に認識してもらいやすくなると思う。新聞で言うと、広域化が進んでいて、今までの広報のやり方だと必ず埋もれていく。

・共催者が決まっている展覧会では、そのマスコミには広報してもらいやすいが、そこしかできない。決まっていない展覧会では、どのマスコミにも取り上げてもらおうとして散漫になってしまい、なかなか取り上げてもらえないという面もある。広報活動は永遠の課題である。

・広報的な発信は、館だけでは厳しいので、行政自体も発信してほしい。市や県を挙げて、文化的なところを底上げしていってもらいたい。ＳＮＳやマスコミの発信も大事だが、人が面白さを伝えていくというのが一番大事だと思う。

・タイトルは、もっと遊びを持って、興味を引くようなものにするなど、もう少し工夫をされてもいいのではないか。サブタイトルやキャッチコピーなどで、今はかなり砕けた文言を国立館でも使っている。

・令和５年度も６年度も、女性アーティストの企画がない。もっと女性目線のアートみたいなものを、今後入れていくのもいいのではないか。